臨床検査医学

〇臨床検査医学の概要

１．臨床検査医学の特色

臨床検体を用いた血液、凝固、生化学、感染症、細菌、遺伝子検査などを高感度かつ高精度で実施できる臨床検査医学の体制を技師と一緒になって構築している。生理機能検査の心電図、腹部エコー、心臓エコー、脳波などを臨床側のニーズに合う形で提供できる体制を整備する努力をしている。

現在、医師は 3 名、検査技師は 70 名程度で構成されている。医師が日常的に行っている業務は、新しい検査導入のための基礎的検討の技師指導、腹部エコー・表在エコー検査報告書の作成、検査についての問い合わせや検査トラブル発生時の臨床側への速やかな対応、部内の精度管理委員会と医療安全委員会の指導、臨床側へ発信するラボニュースの編集、臨床検査適正化委員会の運営などを担当している。

また、医学部 4-5 年生の CCstep1 指導も行う。一番大切にしたいと考えている医師の役割は、日常検査の中で遭遇した解析難解症例の解明に向けた取り組み、特徴のあるデータを集めて解析し研究活動を指導することである。

２．診療実績（2022 年度）

毎週 100 件程度実施されている腹部エコー、表在エコー（リンパ節、皮下腫瘤）の検査報告書の作成と、検査所見について担当した技師と所見の確認作業を行っている

臨床検査適正化委員会を通して検査法の変更や新規検査の導入、検査に関する問題について診療科と意見交換したり、外部精度管理事業への参加報告を行ったりしている。

３．診療・教育スタッフ

前田 卓哉（教 授）、森吉 美穂（准教授）、今井 一男（講師）

４．研修責任者と指導者

研修責任者：森吉 美穂（指導医）

指　導　者：前田 卓哉（指導医）、森吉 美穂（指導医）

５．臨床研修プログラムの特色

細菌検査、遺伝子検査などの検体検査と腹部・表在エコー検査など多岐にわたる検査を研修できる。

６．経験目標・到達目標

一般目標（GIO）

１．検査の原理が理解できる。
２．検査の基本的な実技ができる。
３．検査結果の解釈ができる。
４．精査の方法を指示できる。

行動目標（SBOs）

選択する検査により

細菌検査、塗抹培養、薬剤感受性試験、遺伝子タイピングなどができる。

遺伝子抽出、増幅、同定検査ができる。

腹部エコー検査が一人でできる。

などが目標となる。

研修方略（LS）

選択する検査室内で実際の検査を経験する。検体検査 2 種類、あるいは検体検査 1 種類と腹部エコー検査を組み合わせて研修を行う。希望により、遺伝子検査や脳波検査や筋電図検査などの見学を組み込むことも可能である。

到達目標と評価表（4 週研修した場合）

【評価 A：可　　B：不可】	自己評価	指導医評価
１．細菌のグラム染色と顕微鏡観察ができる。	（　　）	（　　）
２．遺伝子検査用のサンプル調製と検査ができる。	（　　）	（　　）
３．腹部エコー検査が支援できる。	（　　）	（　　）

到達目標と評価表（8 週研修した場合）

【評価 A：可　　B：不可】	自己評価	指導医評価
１．細菌のグラム染色と顕微鏡観察ができる。	（　　）	（　　）
２．遺伝子検査用のサンプル調製と検査ができる。	（　　）	（　　）
３．腹部エコー検査が一人でできる。	（　　）	（　　）

７．週間スケジュール

本人の希望を聞き、研修計画を立案する。

①細菌検査、②遺伝子検査、③腹部エコー検査を可能な範囲で並行して教育できるスケジュールを立てる。

８．研修に関する問い合わせ先

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38
埼玉医科大学病院
臨床検査医学 森吉 美穂（准教授）
TEL：049-276-1111(9320)
E-mail：moriyosi@saitama-med.ac.jp